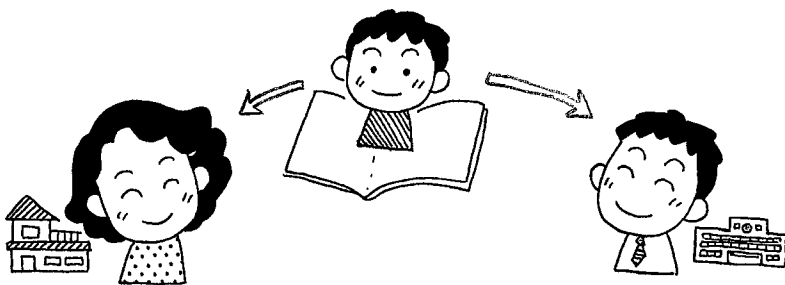


Jさんは4年生まで、周囲からいじめられ、登校をしぶった経験をもっている。また、喘息や貧血もあったので表情も沈みがちであった。Jさんの保護者は、Jさんがいじめられた経験から学校に対する不信感をもっていた。また、Jさんをどのように支えていけばよいかも分からないでいた。

5年生になって担任になったK教諭は、Jさんの発言や、集中力、理解力に光るものを感じて、彼の意見を意識的に採り上げるように努力した。また、連絡帳や学級通信も使い、彼の活躍ぶりを家庭にも伝わるようにした。そして、その点を家庭でもほめてくれるよう書き添えた。日ごとにJさんの表情に明るさが増し、学級での存在感も安定していった。

Jさんは自分のよいところを認めてくれるK教諭の話を、いつも楽しそうに保護者に話すようになった。保護者もそんなJさんの姿をうれしく思うとともに、K教諭に対する信頼感が高まっていった。



子供の問題行動を解決するためには、保護者との連携が大切です。しかし、問題が生じたときだけ保護者との関わりをもとうとしても、なかなかうまくいかないものです。保護者の理解や協力を得るためには、保護者との信頼関係が重要になります。

信頼関係を築くために

① 日ごろの肯定的な姿勢

保護者との信頼関係は、すぐにできるものではありません。自分の子供をよく理解し、よいところを伝えてくれる。自分の子供の成長を心配して声をかけてくれる。このように、日ごろから自分の子供の成長のために努力している教師の姿を見ることで、保護者は教師に信頼を寄せるのです。

② 情報連携と行動連携

来校を求めても拒否する保護者に対し、こまめに家庭に足を運び、世間話をしながら徐々に心を開かせていった例もあります。最近は電話や連絡帳などで連携（情報連携）することと、直接、訪問したり来校を求めたりする連携（行動連携）の両立が求められています。

③ 子供との信頼関係を大切にす

「先生は自分を大切にしてくれる。」「親身になって相談にのってくれる。」「分かりやすい授業だ。」「あの先生の授業はやる気になる。」「困ったときに頼りになる。」など、子供たちが教師を信頼する声を通して、保護者は学校の様子を知るとともに教師に信頼を置くようになります。保護者の信頼を得るためには、日ごろの教育活動を通して一人一人の子供との信頼関係を深めていくことが大切です。